



夏の暑さも落ち着き、過ごしやすい季節になってきました。

昼夜の気温差に気を付け、体調を崩さないようにしましょう！

体調を崩さない為にも、よく食べ、よく遊び、丈夫な身体を作り、
楽しく秋を過ごしましょう♪

RS ウイルス感染症について

RS ウイルス感染症とは、RS ウイルスの感染による急性の呼吸器感染症です。乳幼児期に初めて感染すると重くなりやすく、呼吸困難や無呼吸発作を引き起こすことがあります。再感染するごとに症状は軽くなるといわれています。

潜伏期間 ・4～6 日程度

感染経路 ・飛沫感染、接触感染

症状 ・発熱、咳、鼻水、喘鳴など

・細気管支炎や肺炎、中耳炎などの合併症に注意が必要
・喘息持ちの方は悪化する場合があるので注意が必要
(咳・喘鳴、発熱が続く場合は早めに受診しましょう)

治療法 ・対症療法が中心(重症化すると入院する場合がある)

予防法 ・妊娠中(24～36 週)の方向けの重症化を防ぐワクチン接種をする。特に妊娠 28～36 週に1回接種することで、胎盤を通じて赤ちゃんへ抗体が移行し、生後 6 ヶ月頃までの赤ちゃんを重症化から守ることができる。

・60 歳以上の方向けの重症化を防ぐワクチン接種をする。全ての 60 歳以上の方、重症化リスクの高い 50 歳以上の方が対象。特に慢性閉塞性肺疾患や慢性心臓病などの基礎疾患を持つ方などの接種が推奨される。

※感染した際の登園・登校の目安は「呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと」です。



インフルエンザの予防接種について

インフルエンザの予防接種が始まります。注射での接種だけではなく、鼻腔内に噴霧する生ワクチンがあります。どういう違いがあるのか比較してみました！

注射ワクチン(不活化ワクチン)

接種方法

対象年齢

接種回数

予防効果

副反応

・腕に注射(痛みがある)
・生後 6 ヶ月以上の全ての人
・13 歳未満は 2 回、13 歳以上の人は 1 回接種

接種できない人 ・対象年齢以外の方、発熱、過去のワクチン接種でアナフィラキシーを起こしたことがある方など。

・妊娠中の方は生ワクチンではなく、不活化ワクチンを接種しましょう。授乳中の方が生ワクチンを接種される場合、1～2週間乳児との接触を可能な限り控える、授乳の中止を検討する必要があります。

・身の回りに免疫不全の方がいる、生まれつき免疫が弱い方、免疫機能が低下している方は生ワクチンではなく、不活化ワクチンを接種しましょう。

・喘息や喘鳴がある場合も悪化する場合があるので不活化ワクチンが推奨されています。

※対象の方でも医師の判断により接種できない場合があります。

※いつもと違う体調変化や異常がみられた場合は、速やかに医師に連絡しましょう。

鼻腔内ワクチン(生ワクチン)

・鼻からスプレー(痛みがない)

・2 歳以上 19 歳未満の人

・1 回接種

・約 1 年

・鼻水、鼻づまり、咳、微熱、頭痛、倦怠感など。まれに発疹やアナフィラキシーがみられることもある。

・対象年齢以外の方、妊婦、免疫不全の方、ゼラチンや鶏卵でアナフィラキシーを起こしたことがある方など。



さつまのおいも



土の中で暮らしてきたおいも達がトレーニングをしているよ。なぜかという芋掘りに来た子ども達と、ある勝負をするためです。一体どんな勝負をするのでしょうか。気になる勝敗は？秋を楽しく感じられる絵本です♪

※お問い合わせはこちらまで*
病児保育室くれよん
電話 0893-57-9377
ホームページ
<https://okubo-kc.jp/childcare/>